「舞姫」学習指導の展開と反省

築地道江

一　はじめに

「舞姫」を読むことは文体がむずかしいこととかなり長文であることとから生徒にとって相当困難であろうとは当然考えられたが、エリスとの恋愛は関心をよぶに充分だし、文体の美しさにかえってひかれる生徒も必ずあると思い、年間扱える教材七～九のうちの一つとした。

文学作品を学習する目標の一つに「より豊かに人間を知る」「より深く正しく人間を認識する」ことがあげられるが、「舞姫」はその意味で高三の生徒にとって格好な教材だと考えた。

生徒たちはしばしば人の行為をその結果だけからすぐさま短絡的に良い悪いの判断に結びつけてしまう。――昨年度の「舞姫」学習のばあいでも、「豊太郎はずるい」という声が少しさかしい生徒からまるで公式のように出てそしてそれで事終れりとする態度があった。――ここから脱して、もっとよく人間をわかる目、人間について考える目をもっと豊かに育てたいという願いがあり、ある一つの選択のうちにはそこに至るまでにさまざまな要因が関与し心の屈折があることを教えていかねばならないと考えたからである。

二　五十三年度のばあい

「舞姫」学習の目標を次の三点にしぼった。

(1)　主人公が帰国を選んだ背景に存在したものは何かを考える。

(2)　主人公の苦悩のあとをたどり、何の苦しみなのかを考える。

(3)　文章の美しさを味わう。

学習の方法としては「主人公はなぜ帰国を選んだのか」というテーマをもってグループ学習を展開してみようと考えた。全体をいくつかの場面に分けてそれぞれをグループで担当し、帰国を選んだ理由となるものを抽出していく。その過程で主人公の性格や自我のめざめとその挫折、それに伴う苦しみは自ら浮かびあがってくることになる。最後にグループの発表でまとめていく形を予定していた。

ところが実際は文段ごとのあら筋と小部分ずつの設問とをプリント五枚にまとめて、これに従って読解作業を展開するという一斉学習になってしまった。以下はその設問である。

(一)(1)　「熾熱燈の光の晴れがましきも、いたづらなり。」とあるのはなぜか。

(2)　現在、主人公はどこにいるか。

(3)　五年前の洋行のときはどんな様子だったか。

(4) 今、帰るときの様子はどうか。その理由は何か。
(5) 「東に帰る今の我は、西に航せし昔の我ならず」とあるが、どう変ったか。
(6) 「人知らぬ恨み」はどのように変化していったか。
(7) 「さはあらじ」の「さ」はどこをさすか。

㈡の①
(1) 主人公の生いたちをまとめてみよう。
(2) 洋行の官命を受けたとき、主人公はどんな将来の夢を抱いていたか。
(3) 「五十を越えし母に別るるをもさまで悲しとは思はず」の部分はあとで起こるどんなできごとの伏線となっているか。
(4) 「かれもこれも目を驚かさぬはなき」ベルリン、「あまたの景物目睫の間に集まりた」るベルリンに、主人公はどんな思いで立ったか。
(5) ドイツでの生活はどのようであったか。

㈡の②
(1) これまでの自分はどんな人間であったか。そうなったのはなぜか。
(2) 「いま二十五歳になりて」主人公は自分についてどのように悟ったか。その直接のきっかけとなったものは何か。
(3) 仕事のほうではどのように変ったか。大学のほうではどのように変ったか。
(4) 「これのみにては、なほわが地位をくつがへすに足らざりけむ」とあるが、「これ」は何をさすか。「わが地位をくつがへ」した原因としてほかに何があったか。
(5) 「かの人々」は主人公のことをどう思ったか。
(6) 主人公は自分はどのような人間だと考えているか。
(7) 「これぞ余が冤罪を身に負ひて暫時の間に無量の艱難を閲しつくすなかだちなりける」の「これ」は何をさすか。

㈢の①
(1) 主人公がエリスと会った場所・時を書け。
(2) エリスの様子が描かれている部分を、想像しながら朗読せよ。
(3) エリスの境遇をまとめよ。
(4) 主人公の性格はどうか。
(5) 主人公はどのようにしてエリスを助けたか。

㈢の②
(1) 主人公とエリスとの間がらはどのように変化していったか。
(2) 「わが官を免じ、わが職を解いたり」この直接・間接の原因は何か。
(3) 免官の時の条件は何であったか。
(4) 「母の死」はこの小説の中でどんな役割をしていると思うか。
(5) 「つひに離れがたき仲とな」った時の様子を描いた部分を朗読せよ。
(6) 帰国をためらった理由を二つ書け。
(7) 相沢謙吉はどのようにして主人公を助けたか。
(8) エリスはどのようにして助けたか。

(9) 今の生活を主人公はどう受けとめたか。

(三)の③

(1) 主人公の仕事はどのようであったか。学問のほうはどうか。

(2) 「一種の見識を長じき」とは具体的にどうなったというのか。

(四)の①

(1) 北ヨーロッパの冬の様子を表わしている部分を朗読せよ。

(2) 相沢からの手紙を受け取った日、主人公はどんな心境でいたか。

(3) 相沢はなんのために呼び寄せたか。

(4) 大臣の用事とは何であったか。

(5) 相沢のことば（P192/14～P193/6）をわかりやすい現代語に直せ。

(6) 相沢のことばによって主人公の心にどんな動揺が生じたか。

(7) 「余は心のうちに一種の寒さを覚えき」は、主人公のどんな心の状態を表わしていると思うか。

(8) 主人公はどんな性格か。

(9) エリスのことば（P191/7～11）はあとで起こるどんなできごとの伏線となっているか。

(四)の②

(1) 大臣から「従ひて来べきか」と問われたとき、主人公はなんと答えたか。どうしてこういう答をしたか。

(2) 「心細きことのみ多きこのほど」とあるが、どんなことが心細いことなのか。

(3) 通訳としてどのような場所でどのように働いたか。

(4) 「余はわが恥を表さん。～実行することしばしばなり」（P194/6～10）の部分はあとで起こるどんなできごとの伏線か。

(四)の③

(1) エリスの「ほど経ての書」を現代文の手紙に直してみよう。

(2) 「わが地位を明視しえたり」の「わが地位」とは具体的にどういうことをさすか。それをわからせたのはエリスの手紙であるが、その手紙のどのような内容が主人公に自分の置かれている立場を認識させたか。

(3) 自己のめざめが本物ではなかったと気付いたときの主人公の嘆きはどのように表現されているか。書き抜いてみよう。

(4) 主人公はいつベルリンに帰ったか。その時、町の様子はどうであったか。

(5) エリスと再会したとき主人公の心はどう決まったか。それを表わす一文を書き抜け。

(五)の①

(1) 天方伯の帰国を勧めることばを現代語に直してみよ。

(2) それを聞いてから「承りはべり」と答えるまでの主人公の心の中にはどんな思いがかけめぐったか。

(3) 天方伯と別れてからどのようにして帰りついたか。ホテルを出てから人事不省に陥るまでの様子をたどってみよ。

(4) 主人公はなぜこんなに苦しんだのか。

(五)の②

(1) エリスの発狂の直接のきっかけとなったのは誰のどういうこ

とばか。

(2) 「相沢に与えし約束」とは何か。「大臣に聞こえ上げし一諾」とは何か。

(3) エリスへの変らぬ愛をいだきながらも帰国していく主人公の心を作者はどのような表現で表わしているか。その一文を書き抜き、朗読してみよ。

(4) 第一段の「人知らぬ恨み」とは何であったといえるか。

まとめ　主人公太田豊太郎の生き方をとおして作者は何を書こうとしたか。

初めの計画が全く変ってしまったのは読みの抵抗が予想以上に大きかったからである。授業はまず各自黙読して印象に残ったことを箇条書きにするように指示して始めたが、まもなく「読めない」という声があがり、それがしだいに教室を支配してしまったので、予定を変えて範読を通した。その後で印象に残ったことを書いて提出させ、まとめてプリントにした。三時間めから十八時間めまで、漢字や熟語などのため時間が欠けることはあったが、十六時間にわたって〈指名読み→難解語の質問・説明→プリントの問題（順番に担当）〉という型の授業が続いた。古文の現代語訳のような時間もあったが、質問してくるのを無視することはできなかった。そのあと三時間かけてばらばらにされたものをまとめる意味であら筋とそれに伴う心の動きを表に表わして主題について話し合った。二十一時間を要した。

学年末テストで、一年間に学習した中から一番印象に残っている作品を一つ選んで、どんな点が印象に残っているかを書けという出題をした。（これは予め知らせておいた。）その結果は四クラス百七十名のうち五十三名が「舞姫」をあげて二位であった。その時生徒の書いたことを分類してみると次のようになる。

A　主人公について（33）――○性格・心の弱さ・決断力のなさ（11）○エリスを裏切る苦悩・哀しさ（10）○みがってさ・エゴイズム（9）○相沢への思い（2）○エリスを想う気持（1）

B　エリスについて――その愛・哀しさ・発狂・狂女となってからの様子（14）

C　エリスとの出会いの場面（4）・別れの場面（4）

D　人間のもつ悩み・弱さ・エゴイズム・欲・人生のはかなさ・人の生き方を一般的にとらえたもの（9）

E　文章の美しさ・すばらしさ（5）

F　世間体・社会の壁・明治という時代（3）

G　文学への開眼（1）・やり遂げる自信（1）

H　相沢のとった態度（1）

生徒の書いた文章の中には考えを深めていく手がかりが随所に見られた。これらを生かしていくのには授業のどこで書かせたらよいのだろうか。

相沢への関心の薄さは目標からはずしていたので当然の結果であろうが、これはまちがっていた。

「舞姫」に二十一時間を費やしたことに問題はないか。例えば、(ア)語注をプリントにする　(イ)古文のようにところどころはあら筋にする　(ウ)問題を精選して数を減らすなどの方法で時間を短くすることはできないか。

三　五十四年度　三年六組のばあい

昨年度の反省のうち(ア)は、かなりの量が予想される語注プリントは生徒の負担をかえって大きくする、(イ)は、例えば豊太郎の生いたちを例にとってみても、本文以上に簡潔に要を得た説明をすることは不可能だし、帰国を選んだ豊太郎を理解する上でなくてはならない部分だしと考えていくと、ついに省くところはどこにもないということになり、(ウ)の検討が残された。また昨年度のような注解はできるだけ減らそう。そのままの文章でなければならない名文は至るところにある。

「舞姫」を大きく総合的に把握させるためには、より緻密な指導案が用意されなければならないのに、いざ授業を始める時期になっても、まだ具体案が浮かんでこない。(ウ)の、より精選された問題ができてこない。

今年度は昨年度とは教室の雰囲気がだいぶ違っていて、「舞姫」に対して拒否反応をほとんど示さない。むしろなにかしら期待をもたれて登場するような感じさえした。そんなわけで初めから生徒に読ませ、生徒の読みとったものを引き出してそれをもとにして授業を展開しようと思った。生徒たちのさまざまな読みとりを広く教室全体のものとして問題意識を育てていく授業にしたいと考えた。

また、「舞姫」全体のキーワードを「人知らぬ恨み」に置いて、それは何か、なぜそうなったかを軸にして読みとってみたいと考えた。具体的な目標としては昨年度の三項に、

(4)　相沢の存在の意味するものは何かを考える

を加える。相沢は時代背景を雄弁に語る存在であり、従って豊太郎の帰国を正当化する働きをもっていること、また相沢は豊太郎の内部に潜んでいる別の一面を代弁するものであることを理解させなければならないと考えたからである。

エリスについては、なぜエリスは「舞姫」であり「一輪の名花」であらねばならなかったかという問題意識が私の中で芽生えてはきたが、欲ばってもと思って目標からはずした。

以下はその授業の展開である。

10・22（月）注を見たりことばを調べたりして「舞姫」を最後まで読んでくることを宿題として課す。所要時間をはかること。

①10・24（水）○所要時間　○ごく簡単なテスト○一読して感じたこと(ⓔ)を書いて提出。そのあとグループでまわし読み。

（注）　書かれたものを全部プリントする。ⓐむつかしかった。（平賀）　ⓑとってもむずかしかった。（有馬）　ⓒ文自体とてもむつかしかった。（福島）　ⓓ文章が古文的なので読みづらかったし、意味がよくつかめなかった。（網本・大坪・大村）　ⓔ昔のことばでとても読みづらく、よくわからなかった。（岡崎）ⓕ古文調の文だったので読みづらく、意味不明の所が多かった。（石橋）　ⓖ現代的な文章ではなかったので少し読みづらく、意味がとりにくかったが、主人公の少女に対する想いが悲しいくらいに伝わってきた。（市原）　ⓗひたすらむずかしかった。ロマンチックだったように思うけど。ところどころしかわからず、筋だけしかわからなかった。（尾花）　ⓘ最後、すごくかわいそうだと思った。子供がかわいそうと思った。（遠藤）　ⓙとてもか

わいそうと思った。（衣笠）　ⓚとても長い文章だと思った。なんかとてもかわいそうだった。文が昔の文なので読みづらかった。（片岡）　①かわいそうだった。けど、読みにくかった。（上本）　ⓜ太田が再びエリスのもとへかえってきた所がよかった。（吉井）　ⓝさみしかった。国境というものが、これ程愛しあう二人にのしかかってくるとは思わなかった。（西原）　ⓞ国境を越える愛はいとむずかし。（西明）　ⓟ赤ちゃんがかわいそう。国境をこえた愛はその当時はなかなか結ばれなかった―なんて悲しいことだろう。男は結局最後に出世を選んだのか。本当に彼はエリスを好きだったのかな―。（佐々木）　ⓠ当時の日本人の外国人に対するさげすんだ気持、それを反発することのできない男、家という重たいしきたりに負けてしまった。（空田）

ⓠⓟが出たことは今後の見通しを明るくさせた。この日の「日々の歩み」（授業日誌）に、「いくら読みなおしても、本の意味がわかりません。」（安川）と書かれている。

②10・25（木）グループでまわし読み（続き）

この日の「日々の歩み」に、「この舞姫は、ことばがむつかしくて、意味がつかみにくくて、これから先、授業していくのにどうしようかと思っているのです。」「本の中の漢字がわからないので、これから先よく聞くと思うのでよろしくおねがいします。」（山岡）と書かれている。

③10・29（月）

1　まわし読み（続き）

2　印象に残ったことを書いて提出。（注）

3　グループで分担してことばの意味調べをしておくこと。

（注）　提出されたものを全部プリントする。

ⓐ　エリスの所へ帰ってあげればよいのに。強い人だと思う。（堀越）

ⓑ　エリスがかわいそうだった。（有馬）

ⓒ　女ははかない生きものだと思った。そしてすごくあわれだとも思った。本来ならば、男とはなんて身勝手なと言うべきだと思うが、私は何となく仕事を選んだ豊太郎さんの気持もわからなくはない。男なら当然誰でも出世を夢みるものだし、信念を持って生きる人の姿はとても美しいから。（岡崎）

ⓓ　エリスも豊太郎もなんともかわいそうだった。国境があんなにも重いものだとは思わなかった。豊太郎もなさけない。家や自分自身の事を考えると、しかたなかったのだとしても。エリスがあんなにも思ってくれているんだもの、愛をつらぬいてほしかった。相沢をにくむのはおかどちがいだと思う。わかっていてもにくんでしまうのもわかるけど。（尾花）

ⓔ　エリスの純粋でひたむきな心が哀れさをよぶ。主人公の弱さがエリスを狂わせたことに対して、人間の心とはわずかのことでもろくこわれるガラスのように思えた。（市原）

ⓕ　雅文体でとても読みづらかったけれど、かえってその方が「舞姫」のイメージにぴったりして良いのだろうと感じた。内容としては、エリスのけなげさがよけいに悲しさを増した。また太田をひどい人だと思っていたけれど、彼もまた、エリスか出世かのどちらかを選ばなければならないはめになって、かわいそうだと思

った。（吉井）

ⓖ 男の人は愛と出世を天秤にかけると出世の方が重い……？！もしエリスが日本の女性ならば、こういう悲劇は生まれなかったろう。（西明）

ⓗ 最後が幸に終わらないのでなんとなくおもしろくない。相沢謙吉を憎む心というのもよくわからん。（片岡）

ⓘ 男の身勝手というものを感じた。（石橋）

ⓙ 相沢という男は豊太郎のために自分が悪者になった。自分の夢を豊太郎にたくして、この時代ちょうど政治がたいへん変ろうとしている時に、だれもが権力を得ようとしているのに、親友のために力を貸している。これだけ人のためにできるであろうか。つねに悪く思われがちな相沢であるが、私は相沢を悪くは思わない。（空田）

ⓚ 時代の違いもたしかにあろう。けれど、ああいった時代だからこそ豊太郎の男らしさがほしかった。親友を憎むより自分の弱さを憎めばよいと思った。（西原）

① 「かの人々のあざけるはさることなり。されどそねむは愚かならずや。この弱くふびんなる心を。」「ああ、相沢謙吉がごとき良友は世にまた得がたかるべし。されど、わが脳裏に一点のかれを憎む心、今日までも残れりけり。」（佐々木）

ⓜ 太田はエリスを深く愛し、エリスに子どもを身ごもらせながらも出世を選んだ。そんな勝手なこと許せません。捨てられたエリス、胎児、かわいそうだと思いました。（山岡）

ⓝ 狂ったエリスがかわいそうだった。（平賀）

ⓞ この物語は最後が幸せでないので全然おもしろくない。（遠藤）（—は筆者）

ⓐの「強い人」はどんな点を強いと思ったのだろうか。発展していく着眼だ。ⓓⓕの「かわいそうだ」はなぜそう思うか。ⓕの文体への気付き、ⓙの相沢観などわくわくするような指摘だ。

この日の「日々の歩み」に、「読みがたらないのか、すらすらといいぐあいに読めない。ぜんぜん意味がわからない。読みにくい。」（山田）と書かれる。

④10・31（水）—30分。分担して調べてきたことばを各自写しとる。

⑤11・1（木）前時の続き。終ったところから各自読んで、所要時間と疑問点問題点をメモしておく、できたら音読をしてみるように指示。（宿題となる。）

これでともかく三回めの読みになる。

⑥11・7（水）—25分。所要時間と疑問点問題点を書いて提出。

（注）提出されたものを分類してプリント。

ⓐ エリスはなぜ発狂したか。（福島・安川・山岡）エリスが狂わなければならなかった原因は何か。（衣笠）

ⓑ 作者はなぜエリスを発狂させたか。（大村）

ⓒ 豊太郎はなぜエリスを残して帰国したのか。（衣笠・石橋・大垰・木本・市原・鎌田）豊太郎がエリスをすててまで出世を選んだ理由。（吉井）

ⓓ 豊太郎はほんとうにエリスを愛していたのだろうか。愛してい

たならもっと方法はなかったか。当時の日本の社会のことをもっと詳しく知りたい。（尾花）

ⓔ 豊太郎ははたしてどれほどエリスのことを愛していたのだろう。（佐々木・倉橋）

ⓕ 豊太郎はなぜ相沢を憎んでいるのか。（片岡・遠藤）

ⓖ 相沢の気持。（吉井）相沢はなぜ豊太郎にあそこまで期待をかけたのか。（空田）

ⓗ なぜ「舞姫」と題をつけたか。（網本）

問題意識を広げるため七組のも併せてプリントした。六組で出なかったものとして、

ⓘ 主人公にとってエリスはどんな存在価値があったのでしょうか。があった。

⑦11・8（木）―30分。これまでのプリントと学習の手引きのプリント（注）を読んで、グループで話し合う。

（注） 文段ごとの二～四個の問題は分銅惇作先生の「わたしの授業計画」（学習指導の研究）により、さらに全体をとおしての問題四つを加えた。

⑧11・12（月）―20分。豊太郎の考えや気持の書かれているところに印をつけながら聞くように指示して範読にはいる。（音読は私自身の楽しみの一つで、コンディションを整えてのぞんだくらいだ。昨年度はいきなり範読して惜しいことをしたと思ったので、今年度は生徒が内容をかなりの程度理解した上で読もうと時機を待っていた。）

⑨11・14（水）範読（続き）了。

この日の「日々の歩み」に、「今日は先生に『舞姫』を読んでいただきましたが、とても上手で、読まれるのが早くて、わからない漢字によみがなをふったり、むずかしい言いまわしに線を引くのが精一杯でした。だから家でもう一度やって来るつもりです。」（吉井）と書かれていた。（気を付けてゆっくり読んだつもりだったがまだ早いという。だがこれ以上は遅くできない。朗読の楽しさがなくなる。）

この日の授業をのちに七組の生徒がふり返って書いている。（個人文集のあとがき）

「『舞姫』人間の中味までみすかされているような胸に残る小説で、先生が最後を泣きながら読まれたことにとても感激しました。」（恵藤）「心の中に残っている授業。『舞姫』のところで、先生が本を読んでくださった時のことです。それまでは、自分自身なにげなく読んでいた文章が、ほんとうにすばらしく見えたのです。たった少しの行に、たくさんつめられた思いや考えや問いかけ。本にはそんな魅力があるんだなあと思いました。」（山田）―この日七組ではよい聞き手に恵まれて、「エリスが生ける屍（かばね）を抱きて、千筋（ちすじ）の涙を注ぎしは幾たびぞ。」のところで絶句してしまった。

⑩11・15（木）～⑬11・26（月）学習の手引によって初めから第三段まで学習。指名読みのあと問題を考える。担当者に板書させ、さらに別の観点でとらえたもの、より深くとらえたものを追加させるようにした。

11・15の「日々の歩み」に、「今日は本読みをあてられたけど、先生に比べるとまだまだです。本読みをもっと練習して先生のよう

にスラスラ読めるようになりたいです。」「時間が余れば、ちょっとした読書会を開いて欲しいなあ。」「先生はこの『舞姫』という素晴しい小説といつ巡りあったのですか。」（網本）と書かれている。

⑭11・28（水）～⑯12・3（月）第四段の学習。

小問題(1)～(12)（注）を設け、各自読解作業にはいる。手引の問題も併せて考える。答は前と同じように板書させる。

（注）

(1) 「今朝は日曜なれば家にあれど、心は楽しからず。」――どんな気持か。

(2) 「疾く来よ。」という相沢の意図は何か。

(3) 「よしや富貴になりたまふ日はありとも、われをば見捨てたまはじ。」はどんなことの伏線か。

(4) 大臣の用件は何であったか。

(5) 相沢の言うところを聞いた豊太郎の心中はどんなであったか。

(6) 「この情縁を断たむと約しき。」――なぜ約束したのか。

(7) 「余は心のうちに一種の寒さを覚えき。」――どんな心境か。

(8) 「いかで命に従はざらむ。」――なぜ承諾したのか。

(9) 「余はおのれが信じて頼む心を生じたる人に、卒然ものを問はれたる時は、咄嗟の間、その答への範囲をよくも測らず、ただちにうべなふことあり。さてうべなひし上にて、そのなしがたきに心づきても、強ひて当時の心虚なりしをおほひ隠し、耐忍してこれを実行することしばしばなり。」――どんなことの伏線になっているか。

(10) ロシアでの豊太郎はどんな毎日をすごしたか。どんな気持になったと思うか。

(11) エリスの手紙によって豊太郎はどんなことに気づいたか。

(12) エリスと再会した時の豊太郎の気持はどうか。

12・3の「日々の歩み」に、「『舞姫』を初め読んだ時は、全然あら筋がわからなかったけれど、問題をつくってそれをとくことによって、だんだんあらすじがわかってきたのでよいことだと思う。」（遠藤）と書かれている。

⑰12・5（水）⑱12・6（木）第五段の学習。○帰国を承諾する時の様子と心境　○その後の様子と苦悩　○エリス発狂の原因　○狂女となったエリスに対する心境　○相沢に対する思い　を中心にする。手引の問題は前と同様板書させる。

12・6の「日々の歩み」に、「『舞姫』の問題プリントが最後の方に達してきて、あやふやながらもよくここまでやったと思った。」（大村）と述べてある。

⑲12・10（月）全体をとおしての問題(3)「人知らぬ恨み」とは何であったかを中心に学習。そのあと、第三回めの読みのあと提出されたものと教科書の学習の手引とを参考にして、各自レポートのテーマを決める。

⑳12・12（水）レポートを書く。（12・20を提出期限とする。）

12・17（月）二学期期末テスト□試験範囲は「舞姫」、教科書持ち込み。問1～問9までは部分的な問題にした。問10は全体にわたる問題にし（注1）、問11で感想を書かせた。（注2）

（注1）(A)エリスを発狂させた原因としてどんなことが考えられるか。(B)豊太郎が帰国を選んだ原因としてどんなことが考えられるか。ＡＢどちらかを選んで、その主な原因を三つ以上箇条書きにせよ。

答案にまとめられた原因を分類してみると、

(A)—24名。ⓐ相沢から帰国の話を聞いたこと（16）　ⓑ豊太郎に裏切られたショック・失望（16）　ⓒ豊太郎がエリスに隠していたことを知ったこと（7）　ⓓ豊太郎の弱い心・性格・態度（5）　ⓔエリスより出世を選んだこと（2）　ⓕ豊太郎への怒り（1）　ⓖエリスに対する相沢の圧迫（1）　ⓗあまりにも強く信じて激しく愛し、いちずに思いすぎたこと（3）　ⓘみじめな自分をどうしていいかわからない（2）　ⓙ子供をかわいそうと思った（1）　ⓚこれまでの疲れ（1）

(B)—11名。ⓐ出世したいという心・名誉回復の最後のチャンスだと思ったこと（11）　ⓑロシアでの生活で自信と誇りをもったこと（1）　ⓒ活躍できる満足感をもちたいと思ったこと（1）　ⓓ豊太郎の弱い心・性格（5）　ⓔ天方伯や相沢の期待を裏切ることはできないと思ったこと（7）　ⓔ天方伯に否と言えない雰囲気があったこと（2）　ⓖ欧州大都に葬られてしまうのは耐えられなかったこと（望郷の念）（8）のようになる。

（注2）(A)豊太郎の生き方について　(B)エリスの愛情について　ⓒ相沢の友情について。どれか一つを選んで、あなたの思っていることを自由に書きなさい。

以下答案から——

(A)—19名。

ⓐ「なさけない男だと思う」「いつかはきっと後悔するだろう」（山中）　「きたないと思う」「大嫌いだ」（中村）　「まちがっていると思った」（民安）

ⓑ「出世をえらんでしまった豊太郎、やはり自分が一番かわいいものである」「きっと後悔する日が訪れてくる」（黒瀬）

ⓒ「心が弱すぎる」（安川）「愛し合う以上、それなりの責任を持ってほしかった。友に否とは言えないなんて、女々しすぎる」（石橋）「友には否とも言えず自分の気持をおさえている所はいやだ」（大坪）

ⓓ「豊太郎の持つ弱い心は、エリスの人生をくるわせ」た。「もう少し自分の心を強くもって生きていたら、こんなことにはならなかったのではないだろうか」（中脇）「なぜ、自分の思うように生きなかったのだろうか」「いやだということがいえない性格がくやしい」（藤本）「自分というものをだいじにして人にふりまわされない自分のしんねんをもってほしい」（波多野）

ⓔ「豊太郎のような生き方は好きではない。だけどこうなりつつある。豊太郎ほど頭はよくないが、母の言うまま、人の言うままに流れてしまう傾向にある。彼も私も、もっと主体性をもって生きるべきだ。でないと何人まわりの人を傷つけてしまうかわからないから」（西明）

ⓕ「自我にめざめたと思っていたが、本当は自分の心の弱さに

負けてめざめてはいない。」「別れなければならない豊太郎の胸のいたみはわかるけれど、出世を選ぶより愛の方を選んでほしかった」（大村）

ⓖ「私は決してだらしのない人だとは思わない。これも一つの生き方だと思う。人間は一度は自分の知らない新しい世界に好奇心を抱くものだ。そしてまたもとの世界に帰ってゆく」（岡崎）「豊太郎の出世を選んだことはもうどうしようもないように思う。なぜなら彼は優秀で、初めは出世のことだけを考えていた人であるからだ」（片岡）「特に豊太郎は、天才的な学力をもっていたから出世をすてがたいのはよくわかります」（衣笠）「私はあまりにも豊太郎が秀才であった事、そしてそのために名誉とか世間体とかが気になって、他の人を不幸にしてしまう原因があったのだと思う」（吉井）

ⓗ「豊太郎は苦悩しつづけた人だなと思った」（上本）「エリスとの出会いも、最後には悲劇におわってしまったが、彼を人間的に大きく豊かにしたものだと思う」（吉井）「豊太郎はやさしい人だと思う。弱い心とはいってもそれは人に対するやさしさがそうさせているのだろうと思うから」（片岡）（――は筆者）

ⓓⓕの――部分など、このまま教室へ持っていきたいような気がする。ⓗは読んでいて心がほのぼのとする。

(B)―12名

ⓐ「エリスはりっぱだと思った」（桧山）「本当に純粋な愛し方」「そんなエリスがかわいそうでもありかわいくて仕方がない」（倉橋）「あれだけ自分の愛情をそそげて私はうらやましい」（空田）「こんなにも一途に人を愛せる人間がいるのだなあとつくづくそう思った」「長い間帰ってこないのだから、『裏切られたのかな』と私だったら思うだろう。エリスはそう思うことすらしなかった」「本当に純粋な一途な愛情だと思う」（網本）「あんなにも深く人を愛せるなんてすばらしい」（中本）「永遠に愛しつづける人」（山田）「あんなに愛し続けていられたのはエリスのやさしい疑う心を知らない心からだろうか」（焼丸）「思い込むと、とことんまで思い込む、いわば情熱的な人」（遠藤）「最後の最後まで豊太郎を愛し続けたエリスには、何ともいえないものがあった」（友重）「信じるのみの愛し方をした」（佐々木）

ⓑ「エリスの愛はあまりにも強かったためにそしてあまりにも繊細だったためにこなごなにくずれさったにちがいないと思う」（市原）

ⓒ「たまたま好きになった人の生活の条件が自分と合わなかったためかわいそうなことになった。それでかわいそうだと思うし仕方がないとも思う」（遠藤）

ⓓ「もう少し豊太郎の性格はわかったのではないか」「少し自信過剰の所もあったのだろうか。だから発狂するはめになったのだろうか」（焼丸）「あまりにも豊太郎を独占しすぎていたようにも思う」（友重）「エリスのずうずうしい面もある」（山田）「エリスの愛し方は豊太郎を精神的に圧迫した」（佐々木）

ⓔ 「人を愛することって、ある意味では大変恐ろしいものだと感じさせられた」（中本）「ただあまりに深く愛しすぎ自分達の、自分のおかれた立場をみきわめるよゆうが全くなかった」「エリスを狂わせたのは、相沢でも豊太郎でもなくエリス自身だったのではないか？エリスのあまりに強い愛情がゆえにエリスは狂ってしまったのではないか」（西原）

ⓔ——線の指摘は新しいものだった。なぜ「舞姫」と題がつけられたかというような問題意識が潜在していたから生まれたものと思うが、エリス自身が「舞姫」であり「一輪の名花」であったことに目を向けえなかったのは指導上の手落ちであった。

ⓒ—7名

ⓐ 「相沢が少しでも名誉や地位などを先に考える人間でなかったら、豊太郎の気持がわかったかもしれない」「豊太郎の気持がわからなかったのなら、本当の友人ではない」（稲田）「あまりにも出世のことしか頭にない、そんな人だ」「エリスのことを豊太郎のことをもっと出世のことからはなれて真剣に考えてやれば豊太郎の性格をも友人ならばひごろから見ぬけたはずではないだろうか」（堀越）「本当に機械的人間としか言えない」「もっと豊太郎を理解してやっていたら」（山岡）

ⓑ 「活発な人だと思う。豊太郎は自分の考えを満足に言えず上司親友の言う通りに従うような人間だ」だから「友だちでいられたのかもしれない」（福島）

ⓒ 「友達に出世してもらいたい一心」（木本）「私は相沢が好きである。私だったら豊太郎のような人がいたら『バカなやつだ』ですませてしまうかもしれないし、むしろ心の中で喜々としているかもしれない。『これでライバルが一人減ったぞ』と。友人だったら心配はするであろうが、あそこまではやらないと思う。たしかにエリスを狂わせたのは豊太郎をもとの世界にひきもどしたのは相沢である。しかし私は相沢の気持もわかってやってほしいと思う。ほんとうに相沢は彼なりに豊太郎に友情をもっていたのだから」（尾花）

ⓓ 「相沢の友情はその当時からすれば世間ではもっとも良い方法だったのだろうと思う。相沢としてもそれが最善の方法だったと思ったから豊太郎にしてあげたと思う。しかし本当の友だったら豊太郎の本当の気持をわかってあげられなかったのだろうか。私だったらたぶん豊太郎に愛をえらべというと思う」「しかし相沢が悪いわけではないと思う。その当時の世間の考え方がまちがっているのだと思う」（鎌田）

——線の部分は相沢を具体的にはっきりと把握する糸口になることばだ。

以上生徒たちの読みとりの結果をあげてみたが、これらを手がかりにして話し合ってみたいと思うのが多くあった。

期末テスト以前に書かせてプリントにし、最後のレポートへのジャンプ台にするよう配慮すべきだった。

12・20レポートは次のような題で書かれていた。

(1) 豊太郎の生き方に関して（11）—○豊太郎の生き方① ○エリスを残してまで出世を選んだ理由④ ○豊太郎はなぜエリスを残して帰国したか③ ○エリスとの別れ① ○出世① ○エリスと

出世①

内容はほとんどこれまでに述べられたことであったが、豊太郎の生き方を方向づけたものとして、「優等生のエリートであったこと」「家庭教育」「権威の圧迫」「エリス発狂」がとりあげられたのは新しい着眼であった。特に「エリス発狂」は次の項目と関係のある鋭い指摘だと思う。

(2) エリスを狂人にした作者の意図に関して（5）—○作者はなぜエリスを発狂させたか④ ○愛情の深さ①

豊太郎が一生この「人知らぬ恨み」を背負って生きていくためとする説が共通していた。豊太郎の帰国と結びつける考察はなかった。

(3) 「舞姫」という題に関して（5）—○なぜ題を「舞姫」とつけたか② ○「舞姫」とは……①□○「舞姫」① ○踊り子でなくなぜ「舞姫」にしたのか①

「舞姫」ということばは「かなしい美しい響」をもっていて、それは「エリスの性格・生き方を象徴」している。「優雅であこがれの気持をいだかせる」ことばで「エリスへの償い」をしようとした。エリスは豊太郎が「人生の中で感動したお姫様」であり「人生の中の一つの花」であった。「舞姫故の悲劇」であった。

以上のように述べられている。

(4) 相沢に関して（4）—○相沢はなぜあそこまで期待をかけたのか① ○豊太郎と相沢の友情について① ○友情②

相沢の行動については、豊太郎がすぐれた人物であることを前提として、「すぐれた者はそれ相応の地位、名誉につかねばならないという考え」のもとにとられたことが指摘された。

(5) 豊太郎とエリスの性格に関して（3）—○豊太郎の性格 ○豊太郎とエリスの性格について ○豊太郎の心の弱さ

豊太郎は「心の弱い」ゆえに「迷い苦しみ」「思いやり」があるからこそ「悩み苦しむ」のだという。

(6) 時代に関するもの（3）—○この作品を生んだ時代 ○時代の中の「舞姫」 ○時代と人間

豊太郎は「家・国家の期待を一身に背負っていて、それに応えることに喜びを感じる明治の一青年」である。「西洋に追いつけ追いこせの時代」に「人の上に立つための厳しい教育」を受けたことが「圧力」となっている。「豊太郎の生き方は個人をこえた国家の問題」であり、「相沢が豊太郎に望みをたくしたのも友情のためだけでなく、『時代』のためでもある」「古いしきたり」「家法」「教育（家名をあげる）」などが「絶対的存在」となって、「器械的・所動的人間」をつくり、「人間らしく生きるチャンスを失わせた」などと考察している。

(7) その他（3）

学年末に一年間の現国の学習記録をまとめて個人文集を作った。そのあとがきから「舞姫」学習に関する部分をあげてみる。

ⓐ 新しい題目に入って、はじめさあっと読んでみるのに私としては全然内容がつかめなく、二回めでもまだまだなのです。五回位読んだ所でやっとつかめる。（上本）

ⓑ 段落区切りにしたせいや小さな問題をつくったりしたせいで内容がだんだんわかってきた。（遠藤）

ⓒ 「舞姫」を読んでも、チンプンカンでまったくわからなかったけど、プリントの問題をやっていくうちに、なんとなく内容がつかめてきたようでした。私は、現国が正直いってあまり好きではありません。でも、「舞姫」を学習している時は、問われる内容をみつけるのがへたな私でも、問題をやるのが、楽しかったのです。（木本）

（小問題を与えて学習したことに対しては、七組の生徒も、「初めは書いてあることがチンプンカンプンでおもしろくなかったのに、先生の作られた問題を一つ一つ解いていくうちに主人公の豊太郎を目の前に想像できるまでになった。自分でも不思議な位に豊太郎やエリスのことがわかりました。」（千古）とあとがきで述べている。）

ⓓ 「舞姫」はとてもむずかしかったです。でも古典的な文の意味がわかったり読めただけでも私にとっては大きな利益となったことと思います。（安川）

ⓔ 「舞姫」私は題だけ十年くらい前から知っていた。「舞姫」意味もわからず何年も心の中で暖め続けていた作品。私なりにえがくストーリーにあった。だけど「舞姫」はみごとに私の想像を打ち破り、そして新たな感動をあたえてくれた。美しくつづられる文章の中の厳しい現実。豊太郎の苦悩、エリスの苦しみがまざまざと私にたたきつけられた。そこから学んだものは、人間、裏と表、左からも右からも、しっかり見なくてはその人が理解できないということ。ステキなことを学べたと思う。（西明）

（七組の生徒もまた、「『舞姫』では想像以上のすばらしい授業でした。愛について改めて考えさせられ、人間についても、未熟ながら考えさせられました。」（黒瀬）と述べている。）

ⓕ 小説では、「自転車」「鳥」「孔乙己」「舞姫」の四つをやったけれど、なんと言っても「舞姫」が一番おもしろかったです。一年間の授業の中でも最高だったのでは?! うまく言えないけれど、私が感じたことは、女子校だからこそ、あんな風にみんなから次々と、思い思いの意見等が出て、「舞姫」の授業がおもしろくなったのではないか、もし共学の学校でこれを習っていたら、違う風に読んでいたというか、集中して出来なかったのではないかと思います。それこそ授業が、先生の「独断場」と化されてしまうのではないかと思いました。（吉井）

四　反省と今後の課題

1　生徒たちの書いたものを読みながらあまりにも二者択一的に読みすぎたのではないかと気付いた。そんな折、中野重治氏の次のような文章に出会った。「彼はけっして、恋愛を取るか世俗の功名を取るかという二者択一で単純に一方を取ったのではなかった。結果としてその形になりながら、二者択一でなくて二者の統一がどこかで望まれている点の文学へのはじめての表現、ここに『舞姫』の力が生まれたのであった。」（角川文庫「舞姫・うたかたの記」作品解説P136）――二者の統一を求めるからこそ豊太郎の苦悩もより意味のある重いものになるにちがいない。

2　豊太郎の功名心は生徒たちの感覚でとらえるそれとは違うのではないか。自分に期待をかけている家・国家に対して自分が果た

すべき義務つまり使命感に支えられたものである。その点を明確にし、実はそれこそ前近代的な考えであることを把握させておかねばならない。

3　豊太郎の生き方はあれはあれで仕方がないという傾向の感想は気になる。私自身のことばの端々に豊太郎の帰国をあいまいに是とする雰囲気はなかったか。厳しく読み取ることのむずかしさを感じる。

4　授業の中心を第四段（揺れ動き苦悩する豊太郎の心情）に置いたが、その前提となる第二段（自我のめざめ）の読み取りが観念的に片付けられてしまったのではないか。封建的な生き方とは何か、近代人としてのめざめとはどんなことか、それを促した要因などについては文章に即して丁寧に把握させておかねばならない。

5　時代背景についても、母・上官・相沢の言動を丁寧に押さえることによって理解させるべきだった。

豊太郎やエリスの性格についても文章に即してしっかり押さえていくことがおろそかになった。

6　文体に魅せられた生徒も多かったのに、そのすばらしさは何から生まれてきているかについては触れられなかった。惜しいことをした。

中野重治氏が鷗外文学との出会いを語って、「こう開いたら、『石炭をば早や積み果てつ……』よ。それで参っちゃった。」と述べておられる（文芸読本森鷗外河出書房新社P162）が、冒頭文の偉大な魅力についても注意を喚起すべきだった。

7　生徒たちの気付いた疑問点・問題点をもっと個々人に生かして学習を展開することはできなかったか。またしても一斉授業にしてしまった。そのためもあって、たとえば帰国の原因やエリス発狂の原因など同じことをくどくどくり返したような気がする。最初書かれたことを出発点にして段階を追って問題を発展させていくようにくふうできないものか。

8　生徒たちの書いたものの中にはぜひ教室全体のものにしたいと思うものが多くあった。そういう気付きや考えをその場で生かすためには話す・聞く学習形態ができていなければならないだろう。ともかく生徒たちの読み取ったものを充分に生かして授業を展開したい。

9　これまで生徒たちは朗読の楽しさをあまり体験していないように感じた。朗読の楽しさを体験する機会をつくればよかったと今にして思う。

10　最後のレポートにとりかかる前に参考文献を紹介しておくとよかった。

11　ことしもまた「舞姫」の学習に二十時間かかった。現代国語で当然教えなければならないことはほかにも数多くあるのに、これだけの時間を割いてよいものだろうか。生徒の書いたあとがき(f)はそういう意味ではっとさせるものであった。

（ページ行は筑摩書房現代国語3改訂版による。）

（広島・大下学園祇園高等学校講師）